

国立国語研究所学術情報リポジトリ

宮古語大神島方言の助辞 kami と ta:si のふるまい：
助辞 kami の意味の拡張をめぐって

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立国語研究所 公開日: 2024-01-31 キーワード (Ja): 宮古語, 大神島方言, 助辞, 当為性, はたらきかけ文 キーワード (En): 作成者: 金田, 章宏 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/0002000473

宮古語大神島方言の助辞 **kami** と **ta:si** のふるまい

——助辞 **kami** の意味の拡張をめぐって——

金田章宏

千葉大学 名誉教授／国立国語研究所 共同研究員

要旨

宮古語大神島方言の助辞には、日本語マデに対応する **kami** と **ta:si** に、日本語と同様に格（終了限界）ととりたて（極端な例）の用法がある。大神島方言の **kami** には以上の用法のほかに、他の多くの琉球諸語の焦点化助辞 **du**（大神島方言では **tu**）の用法に似た対比・焦点化の用法がみられる。

大神島方言の **kami** は焦点化から当為性へと意味の範囲を広げ、当為性からはさらに、のべたて文をはたらきかけ文にする＝述語動詞がのべたて形のままではたらきかけ文にする＝という用法が派生する。当為性をあらわす文はのべたて文なのでテンスの対立をもつが、未来の当為的な意味が二人称に向けられることにより、テンス対立のないはたらきかけ文に移行するのである。

キーワード：宮古語，大神島方言，助辞，当為性，はたらきかけ文

1. はじめに

本稿は宮古語大神島方言の文法書を作成するためのパーツの一部を整理したものである。したがって、特段の主張は示さない。以下に、例とともに本稿の概要を示す。

大神島方言の助辞には、日本語「まで」に対応する **kami** と **ta:si** に、日本語と同様に格（終了限界）ととりたて（極端な例）の用法がある。この用法は周辺の宮古語諸方言の対応形式にも比較的広くみられるものである。

方言の訳のほうでは、焦点化助辞 **tu**（他の多くの琉球諸語の **du** に対応）の箇所に機械的にゾを対応させるが、コンピュータや融合などで対応が困難な場合は省略する。また、訳はできるだけ直訳的にしてあるので、日本語としては不自然なところもある。

“[” と “]” は音調をあらわす記号であり、それぞれピッチの上がり目と下がり目を指す。また、！はそのあとの母音の無声化をしめす。kS は強い摩擦をともなって発音される k で、S は音節主音的な機能をはたしている。

本稿で使用したデータは、大神島在住の狩俣英吉氏（1925 年～2023 年。調査期間 2013 年～2023 年）、および伊佐照雄氏（1949 年生。調査期間 2023 年～）による。

・格 空間の限界点

(1) **uma=kami]** **katiru.** ここまで耕せ。

(2) **kama=nu pari]=ta:[si]** **a][ka.** あそこの畑まで歩こう。

・格 時間の限界点

(3) jozi=kami] uma=N mati:ri. 4時までここで待っている。

(4) Nnama]=ta:[se: (<*ta:si=ja) ikSti]=tu uŋ. いままでは生きてゾいる。

・とりたて 極端な例

(5) kari=kami=tu] k!isi. あいつまでゾ来た。(ハダカ主格)

(6) kari]=ta:si=[tu] nara:si. あいつ(に)までゾ教えた。(ハダカ与格)

大神島方言の kami には以上の用法のほかに、琉球諸語一般にみられる焦点化助辞 du の用法に似た対比・焦点化の用法がみられる。この用法も周辺の一部の方言で確認されている。一方、大神島方言の ta:si のほうにはこうした用法、およびこれ以降の用法はみられない。

(7) kama=N=kami=tu] aŋ kumata. (間違いなく) あそこにゾあるはずだ。

大神島方言の kami は、焦点化からさらに当為性へと意味の範囲を広げる。

(8) kare: ma:takina=kami=tu] num. あいつは(当然) いっしょにゾ飲む。(にぎやかなのが好きだから)

当為性からはさらに、のべたて文をはたらきかけ文にする=述語動詞がのべたて形のままではたらきかけ文にする=という用法が派生する。当為性をあらかず文はのべたて文なのでテンスの対立をもつが、未来の当為的な意味が聞き手に向けられることにより、テンス対立のないはたらきかけ文に移行するのである。

(9) ma:takina=kami=tu] num. いっしょにゾ飲もう。のべたて総合形による勧誘

(10) [ma:takina num=kami=tu sŋ. いっしょに飲みゾしよう。のべたて分析形による勧誘

本文で字下げした例文は比較のためにあげた kami を含まない例文である。また、字下げした文頭の > につづく文は、その上の問いなどの文を受けた文である。

2. 格の用法

範囲の限界点をあらかず。空間と時間の限界点が典型的である。

2.1 空間の限界点

○kami による空間の限界点

(11) uma=kami] katiru. ここまで耕せ。

(12) ki:=ja] kama=kami s[ke:]sati. きょうはあそこまで走る。(意志)

(13) ja:=kara im]=ka[me: (<*kami=ja) u[te:. 家から海までは遠い。

○ta:si による空間の限界点

(14) ki:=ja] Nta=ta:si pu:ripa=tu [tau]kaŋ? きょうはどこまで掘ればゾいいか?

(15) kama=kara] uma=ta:si=na: assu. あそこからここまでやれ。(=na: いつも, 毎回)

(16) uma]=ta:[se:] (<*ta:si=ja) ute:ffa] ne:N. ここまでは遠くない。(地図を見ながら)

なお, 限界点に対応する空間の開始点は kara 格であらわす。

(17) uma=kara ikStika: jura]ri=tu sŋ. ここから行ったら迷うよ。

2.2 時間の限界点

持続的な動作では限界点をあらわし(まで), 終了限界点を持つ動作や変化では限界点以前をあらわす(までに)。

○kami による時間の限界点, 限界点以前

・限界点

(18) jozi=kami] uma=N mati:ri. 4時までここで待っている。

(19) vva] ikS=kami]=[mai] ukami:ri. あなたはいつまでも押んでいる。

・限界点以前

(20) pSsma=kami] assu. 昼までにやれ。

(21) icizi=kame:] ku:ta. 1時までには来ないと(いけない)。

限界以前の例に kamiN の例もみられるが, N を入れないほうが自然である。

(22) pSsma]=kami[N] nausi. 昼までに直しなさい。

○ta:si による時間の限界点, 限界点以前

・限界点

(23) jozi=ta:si] uma=N mati:ri. 4時までここで待っている。

(24) a[ta=ta:si=mai] a[ri:ŋ] kumata. あしたまでも(ものが)ある予定だ。あるはずだ。

・限界点以前

(25) pSsma]=ta:[si] asi:ki. 昼までにやっておけ。

(26) rokuzi]=ta:[se:] uki=tu sŋ. 6時までには起きずする。

限界以前に ta:siN の例もみられるが, N を入れないほうが自然である。

(27) pSsma]=ta:si[N] nausi. 昼までに直しなさい。

なお、限界点に対応する時間の開始点は **kara** 格であらわす。

(28) ara:] Nnama=kara siNbunnu [ju]mati. 私は今から新聞を読みます。(siNbunnu < *siNbuN=ju)

3. とりたてマデの用法

大神島方言の **kami** と **ta:si** は、日本語のとりたてマデとおなじように極端な例であることをあらわす。他の存在を暗示したり、他との比較がある。

この用法には **kami** も **ta:si** もあらわれるが、大神島方言では **ta:si** のあらわれる用法の範囲はかなり狭い。**ta:si** の基本は主格、対格、与格の意味のハダカ形に使用され、格形式であらわれるのは共格の一部のみである。以下の **kami** の用法で☆がついているのは、**ta:si** にもある用法である。**kami** と **ta:si** の箇所には機械的に「まで」を対応させる。

3.1 **kami** による極端な例

○主格

- ・格表示なし☆

(29) kari=kami=tu kli]si. あいつまでゾ来た。

(30) mim=kami=tu] kauf nari. 耳までゾかゆくなった。

(31) aN=kami=tu] ɟai. 私までゾ怒られた。(受動動作の対象)

○対格

- ・格表示なし☆

(32) ffari]munu=kami=[tu] fai. 腐っているものまでゾ食べた。

(33) tu:]=kami=tu [fai. しっぽまでゾ食べた。

- ・格表示あり

(34) vva: kanu fa:=u=kami=tu nakastaɟ na]:? おまえはあの子どもをまでゾ泣かせたのか？

(35) ffari:] munu:=kami=tu [fai. 腐っているものをまでゾ食べた。

(36) u[ri:=kami] mu[ti ikati] na:? そんなものをまで持っていこうとするのか？

○与格 N

- ・格表示なし☆

(37) aNsi=nu] tukuma=kami=[tu aɟ. こんなところ (に) までゾある。

(38) umanaki]=kami=tu stirai uɟ. あちこち (に) までゾ捨てられている。(ゴミが)

(39) paka=kami]=[tu i]ki. 墓 (に) までゾ行った。

- ・格表示あり

(40) aNsi=nu] tukuma=N=kami=[tu aɟ. こんなところにまでゾある。

(41) uma=N]=kami=tu a₁. ここにまでゾある。

○与格 Nkai

・格表示あり

(42) kari=Nkai]=kami=[tu] nara:si. あいつにまでゾ教えた。

(43) paka=Nkai]=kami=[tu] iki. 墓にまでゾ行った。

○共格 sui

・格表示あり☆

(44) kari=sui]=kami=[tu] appi. あのひとまでゾ遊んだ。(いやなひと)

(45) kari=sui]=kami=[tu] fai. あのひとまでゾ食べた。(いやなひと)

○共格 tu

・格表示あり

(46) [i: vva: kari=tu=kami=tu asp₁[ta₁? え?おまえはあんなやつとまでゾ遊んだのか?

(47) [i: vva]: [kari=tu=kami=tu] num[ta₁? え?おまえはあんなやつとまでゾ飲んだのか?

○共格 sa:ri

・格表示あり

(48) kari=sa:ri=kami=tu] asp₁ta₁. あいつとまでゾ遊んだ。(顔をしかめて言う。)

○共格 sui

・格表示あり

(49) kare:] mus=sui=kami=[tu ap]pi:ɲ. あいつは虫とまでゾ遊んでいる。

○具格

・格表示あり

(50) unu] pau=si=kami=tu [ta]taki. この棒でまでゾ殴った。

○動詞肯定形

(51) Nma=ka=tu] fai=kami a₁. 母がゾ食べてまでである。

○動詞否定形

(52) asi: fa:ta=kami=tu] aspi:ɲ. 昼飯を食べないでまでゾ遊んでいる。

(53) nivvata=kami=tu] asi:ɲ. 寝ないでまでゾやっている。

○動詞意志形

(54) ffi fa:ti:]=kami=tu u₁. 嘔んで食べようとまでゾしている。(夫婦げんかなどで、かみついてやろうとまでしている)

(55) fa:ti:]=kami=tu u₁. 食べようとまでゾしている。(ふつう食べないものを)

(56) ukamati:]=kami]=tu u₁. 拝もうとまでゾしている。祈ろうとまでゾしている。①今やろうとしたのに! (「なにしてるの、早くしないと!」に対して言い訳的に言う。) ②悪いことをしてもものすごく反省している感じ。

(57) ffati:]=kami]=tu u₁. 降ろうとまでゾしている。降りそうだ。(降られたら困るのに!)

○修飾語☆

ここにみられるのは程度の修飾語（どのくらい）だけである。kami が基本的で、ta:si の例は少ない。情態の修飾語（どんなふうに）のほうは次に取り上げる焦点化になるようだ。

・モノの存在の量

(58) iciro:=ja] fa:=nu=tu [mi]ta:ɣ=kami uɿ. 一郎は子どもがゾ3人までもいる。

(59) usakana:=kami]=tu uɿ. たくさんまでゾいる。(魚が潮だまりにこんなにたくさん。驚き、意外性がある。)

(60) u[sakana:=tama=kami=tu aɿ. たくさんずつまでゾある。(たくさんずつ配当する分がある。)

・動作の主体や対象の量

(61) mita:ɣ=kami=tu] klisi:taɿ. 3人までもゾ来ていた。(予定外)

(62) ki:=ja] aNsi:=na:=kami=tu [k'isi] klisi. きょうはこんなにずつまでもゾ釣ってきた。

(63) miɿ]N:=kami]=[tu] mi:. 3回までもゾ見た。

(64) Nma=ka=tu m:=na=kami] fai aɿ. 母がゾみんなまでも食べてある。

・変化の量

(65) pStu]kSkɿ=N=tu ic!ikiro=kami u[taf] nari. ひと月にゾ1キロまでも太った。

(66) ic!ikiro=kami u[taf] nari ne:N. 1キロまでも太ってしまった。

・狭義の程度

(67) uNsku:=na:=kami]=[tu] jukurasi uske:ɿ] na:. こんなにまでもゾ汚して置いてあるねえ。

3.2 ta:si による極端な例

○主格

・格表示なし

(68) kanu] upuNma=ta:si=mai]=[tu] puturi. あのオバアまでもゾ踊った。

(69) aka] kɿme:=N vva=ta:si siwa asi ura[ta] urapamai. 私のことであなたまで心配してなくても(いいよ)。

(70) aN=ta:si=tu] ɿai. 私までゾ怒られた。(受動動作の対象)

○対格

・格表示なし

(71) ɿwu=nu tu:]=ta:si=tu [fai. 魚のしっぽまでゾ食べた。

(72) ffari:ɿ] munu=ta:si=tu [fai. 腐っているものまでゾ食べた。

(73) unu] sara=ta:si=tu [fai. この皿までゾ食べた。

○与格

・格表示なし

(74) aNsi=nu] tukuma=ta:si=tu aɿ. こんなところ(に)までゾある。

(75) kari]=ta:si]=[tu] nara:si. あいつ(に)までゾ教えた。

(76) agi [uma=ta:si=tu] stirai uɿ. あ、ここ(に)までゾ捨てられている。(ゴミが)

○共格 sui

・格表示のみ（この使用の可否には個人差がみられる）

(77) kari=sui]=ta:si]=[tu] appi. あのひとまでゾ遊んだ。（いやな人）

(78) kari=sui]=ta:si]=[tu] fai. あのひとまでゾ食べた。（いやな人）

○修飾語

ここにみられるのは狭義の程度の修飾語だけである。修飾語につくのは *kami* が基本的だが、*ta:si* の例もわずかにみられる。情態の修飾語のほうは次に取り上げる焦点化になるようだ。

(79) a[tu] tukapStuŋ=ta:si]=[tu] kakaŋ. あと 11 日まででもゾかかる。（作業日数）

(80) hjakumaNeN=ta:si¹ kakaŋ=tu sŋ [ja]:. 百万円までもかかるんじゃないかな。（費用）

>e[: hjakumaNeN=kami na]:? え？百万円までもなの？

4. 焦点化

kami の極端な例というとりたての用法は、そこに注目するという点で焦点化の用法に連続するだろう。焦点化は、さまざまな文の部分に焦点をあてた「ほかでもない、まさにそれ、まさにそう」といった意味である。そこに焦点をあてることが目的であって、それ以外との関係＝対比性は表示されてもされなくてもいい。この意味は、琉球諸語に広くみられる焦点化助辞 *du* に類似するが、大神島方言ではこれに対応する *tu* も使用される。*tu* には形式化して焦点化の積極的な意味を失ったような例もみられるが、*kami* にはまだそのような例はみられないようだ。また、*tu* には次にあげる当為性の意味もみられない。

この用法での *kami* の箇所には「まさに」や「間違いなく」などをおぎなう。訳では日本語のノダ形となじみやすいようだ。

○主格

(81) ki:]=ja [ta:=ka=tu] k!isi:taŋ? きょうはだれがゾ来っていたの？

>kari=ka=tu] k!isi:taŋ. あいつがゾ来っていた。

ta:]=ka=tu ka [ju]:? だれがゾなの？（本当にその人か？）

>kari=ka=kami=tu] k!isi:taŋ. (まさに) あいつがゾ来っていたんだ。

(82) [unu ŋu:=pa: aka=kami=tu turi] kSstaŋ. この魚は（間違いなく）私がゾ取ってきた。

○対格

(83) unu ŋu:=kami=tu ara: turi] kSstaŋ. (ほかでもない) この魚をゾ私は取ってきたんだ。（ほんとうだ！）

○与格 N

(84) uma=N=kami=tu] ara: uskŋta:. [Nta=Nkai=tu peŋta]re:? （間違いなく）ここにゾ私は置いたんだ。どこに行ったのかな？

¹ 撥音終わりの名詞に母音が続くと渡り音に *ŋ* があらわれて、*hjakumaŋjeN* に聞こえる。この現象は *~bja:N i:* (*bja:ŋŋi:* ~かねえ。) のように池間島方言にもみられる。

(85) uma=N=kami=tu] aŋ kumata. [Nta=Nkai=tu ikatis]se:? (間違いなく)ここにゾあるはずだ。どこにゾ行ったのかな?

○共格 sui

(86) [vva: taru=tu=tu aspi? あなたはだれとゾ遊んだの?

>kari=sui=kami=tu] aspŋtaŋ. (まさに)あいつとゾ遊んだんだ。(重ねて,だれなの?としつこく聞かれたとき)

(87) vva]: [taru]=tu=tu [pSsara=N]kai [ikStare]:? おまえはだれとゾ平良に行ったの?

>kari=sui=kami=tu] ikStaŋ. (まさに)あいつとゾ行ったんだ。(重ねて,だれなの?としつこく聞かれたとき)

○共格 sa:ri

(88) [vva: taru=tu=tu aspi? あなたはだれとゾ遊んだの?

>kari=sa:ri=kami=tu] aspŋtaŋ. (間違いなく)あいつとゾ遊んだ。

kari=sa:ri=tu] aspi. あいつとゾ遊んだ。(軽く答える)

○動詞完成相

(89) num=kami=tu] staŋ. (間違いなくちゃんと)飲んだ。人称不問

kŋna:] tarube:=ja arata [iciro:=tu=tu num]taŋ. きのはタルベーじゃなくて一郎とゾ飲んだ。

(90) kŋnu: nivvata=kami=tu] astaŋ. きのは(間違いなくちゃんと)寝ないでゾやった。(きのう寝ただろう!と疑われて)

kŋnu: nivvata=tu] astaŋ. きのは寝ないでゾやった。

○動詞継続相

(91) fai=tu uŋ] na:? 食べてゾいるの?

>fai]=tu uŋ. 食べてゾいる。

ma:Nti fai=tu uŋ] na:? ほんとうに食べてゾいるの?

>fai=kami=tu] uŋ. (間違いなく)食べてゾいる!

○動詞意志形

(92) sŋnati:]=kami=tu uŋ. 死にそうだ。(まさに)死にそうなまでの状態だ。(比喩的に力なく言う。私は二日酔いで)

(93) ukamati:]=kami]=tu uŋ. (まさに)いま拝もうとゾしている。(なにしてるの,早くしないと!に対して言い訳的に言う。今やろうとしてたのに!)

○動詞命令形

(94) vva=ka numi:=ti:]=kami=tu us]ke:ŋ. あなたが(まさに)飲むようにゾ(私が)置いてある。(飲んでほしいから。直訳は「あなたが飲め,と」)

(95) numi:=ti:]=kami=tu uske:]ŋ. (まさに)飲めとゾ置いてある。(飲むのはあなたでもだれかでもいい。飲めと言ったのも,私でもだれかでもいい。この酒はなに?>だれでも来た人が飲むように置いてあるんだよ。)

numi=ti:=tu] uske:ɣ. 飲めとゾ置いてある。(私でもだれでも、あなたが飲むように)

○形容詞(対比)

(96) ure:] arata [kuri=ka=kami=tu] masɣ. それじゃなくて、これが(まさに)ゾいい。

(97) uma=jɯ]a [kama=nu=kami=tu taka]kaɣ. ここよりはあそこが(まさに)ゾ高い。

○類似をあらわす形式

(98) jakuza=Nsi=kami]=tu uɣ. (あいつはまるで)乱暴者だ。(怒りっぽい)

jakuza=Nsi]=tu uɣ. (あいつは)乱暴者だ。(怒りっぽい)

(99) kɣnu: nakɣ=Nsi=kami]=tu utaɣ. きのは(まるで)夏みたいだった。(冬なのに)

kɣnu: nakɣ=Nsi]=tu] utaɣ. きのは夏みたいだった。(冬なのに)

○副詞(情態副詞)

(100) kare: ikS=mai] aNsi!kami=tu jaɣ. あいつはいつも(間違いなく)あんなふうだ。

kare: ikS=mai] aNsi. あいつはいつもあんなふうだ。

○陳述詞

(101) ma:Nti:=kami=tu] kSstaɣ. (あいつは間違いなく)ほんとうにゾ来た。(＜あいつはほんとうに来たのか？)

ma:Nti:=tu] numi.ほんとうにゾ飲んだ。(飲んだ瞬間)

○後置詞

(102) vva: Nta=u tami=tu] aɣki:ɣ? おまえはどこを向いてゾ歩いているの?

>imma tami=kami=tu] aɣki:ɣ. (まさに)海を向いてゾ歩いている。(imma<*im=ja)

○コピュラ

(103) Nnama: nakS=kami=tu ja]ɣ. いまは(まさに)夏だ。(なにを勘違いしてるか!)

Nnama:] nakS. いまは夏だ。(ふつうに)

(104) vva=ka tumi:ɣ] muna: [uri=kami=tu] jaɣ. あなたが探しているものは(間違いなく)これだ。

(105) uri=kame:] araN. (まさに)これではない。(絶対にこれは違う)

○対比の例

(106) kɣna:] tarube:=ja arata [iɣiro:=tu=kami=tu] numtaɣ. きのはタルベージャじゃなくて(まさに)一郎とゾ飲んだんだ。

kɣna:] tarube:=ja arata [iɣiro:=tu=tu num]taɣ. きのはタルベージャじゃなくて一郎とゾ飲んだ。

(107) ure:] arata [kuri=ka=kami=tu] masɣ. それじゃなくて、(まさに)これがゾいい。

kare:] arata [uri=ka=tu] masɣ. あれじゃなくて、これがゾいい。

(108) kari=ka=kami=tu] klisi:taɣ. [ure:] ku:tatam. (まさに)あの人がゾ来ていたんだ。この人は来なかった。

(109) ara: saki:=kami=tu] numaN. 私は(まさに)酒をゾ飲まない。(ジュースなら飲むよ。)

(110) ara: saki:jaripa=kami=tu nu]matataɟ. 私は(まさに)酒だからゾ飲まなかった。(ほかなら飲んだけど)

(111) ure: iciro:]=ja araN. [tarube:=kami=tu] jaɟ. これは一郎じゃない。(まさに)タルベーだ。(写真を見て)

(112) ure:] ki:. [ure: ki:=kami=tu] jaɟ. それはきょうだ。それは(まさに)きょうだ。

文の部分のうち述語の焦点化は、つぎの当為・義務的な意味に連続する。

5. 当為性

焦点化の意味には、「当然そうである、当然そうでなければならない、当然そうしなければならない」といった当為・義務的な意味が連続する。

焦点化では名詞の格形式など、さまざまな文の部分が焦点化の対象となったが、当為性のほうは、基本的に述語部分がその対象となるようである。

当為性には主観的な当為性(思い込み的、自分の判断に自信がある感じ)もあれば、客観的な当為性(客観的な情報に基づいて主観を交えずにそれが当然であると判断)もある。

文のタイプとしては、断定的に肯定、または否定するので、のべたて文が基本であり、たずね文、うたがい文、はたらきかけ文には使用されないようである。ただし、確認文には使用されることがある。また、のべたて文なのでテンス対立があるが、継続相の現在テンスでは *kami* の有無が現場性と関わったり、予定性の *kumata* のあるコピュラ文の過去テンスでは実現しなかったこと(反実仮想的な意味)になったりする。このあたりの詳細については用例を増やしてあらためて検討したい。

この用法での *kami* の箇所には「当然」などをおぎなう。

○動詞完成相

(113) kare: ma:takina=kami=tu] num. あいつは(当然)いっしょにゾ飲む。(にぎやかなのが好きだから)

(114) ata=mai ff=kami]=tu sɟ. (ずっと降ってるから当然)あしたも降る。(判断材料がある。)
ata=mai ff]=tu sɟ. あしたも降る。(単に)

(115) kare: ku:N]=kami=tu jaɟ. あの人は(当然)来ないんだ。(事情があるから)
kare:] ku:N. あいつは来ない。(単に)

○動詞継続相

(116) k!isi=kami=tu] uɟ. (連絡もあったし、もうその時間だから当然)来てゾいる(はずである)。
k!isi]=tu uɟ. (あいつは)来てゾいる。(見て)

(117) nivvi]=kami=tu uɟ. (この時間だから当然)寝てゾいる(はずである)。
Nme] nivvi]=tu uɟ. (あいつは)もう寝てゾいる。(見てきて教える。)

(118) uja=Nsi=kami=tu uɟ]. (あいつは)親と似ている。(見なくても、そんなのは当然だ。)

(119) k!isi=kami=tu] utaŋ. (彼は間違いなく) 来ていたよ。(そんなのは当然だ。)

○動詞意志形

(120) numati:=kami=tu] uŋ. [pe:pe:] ku:. (当たり前だ!) 飲もうとゾしている(に決まってるだろ)! 早く来い!(電話で。みんな集まっているし、もうこんな時間だから)

nivva]ti:=tu uŋ. 寝ようとゾしている。(あいつは)

○コピュラ(以下は形式名詞述語の例)

(121) ata=mai kSs kumata=kami=tu] jaŋ. (あなたは) あしたも(当然) 来るべきだよ。(来なかったら大問題だよ!)

ata=mai kSs] kumata. (あなたは) あしたも来ることになっているよ。(予定表を見て。単なる予定)

(122) kari=Nkai=mai panassu as kumata=kami=tu] jataŋ. (おまえは) あの人にも話をすべきだったんだぞ。(それなのにおまえは話をしなかつただろう! どうしてくれる!)

kari=Nkai=mai panassu as kumata=tu] jataŋ. あの人にも話をすべきだった。(単に)

(123) kSs kumata=kami=tu] jataŋ. (当然) 来るべきだった。(なのに来なかった。なんてやつだ!)

kSs kumata=tu] jataŋ. 来ることになってゾいた。(けれど来なかった。単なる予定)

○副詞(情態副詞)+コピュラ

(124) aNs!i=kami=tu] jaŋ. (当然) そうでゾある。(あなたがそう思うのは当然である。)

aNs!i=tu] jaŋ. そうでゾある。(単に)

以上みてきた用法には、格の終了限界、とりたての極端な例、焦点化、当為性のように意味の連続性、拡張がみられる。当為性の意味はさらに、未来の意味で(一・)二人称に向けられることで、つぎのはたらきかけの用法に移行する。

6. 終止のべたて形によるはたらきかけ文

冒頭の例をあらためて確認する。関連するのべたて文と勧誘形による勧誘文もあわせて示す。

(8) kare: ma:takina=kami=tu] num. あいつは(当然) いっしょにゾ飲む。(にぎやかなのが好きだから) のべたて文の当為性の例

ma:takina=tu] num. (彼は私たちと) いっしょにゾ飲む。のべたて文・非過去

saki:=kami=tu num]taŋ. (まさに) 酒をゾ飲んだ。のべたて文・過去総合形

num=kami=tu] staŋ. (ちゃんと) 飲んだ。のべたて文・過去分析形

(9) ma:takina=kami=tu] num. いっしょにゾ飲もう。のべたて総合形による勧誘

(10) [ma:takina num=kami=tu sŋ. いっしょに飲もう。のべたて分析形による勧誘

ma:takina] numa. いっしょに飲もう。勧誘形による勧誘

kami の、当然そうである、当然そうすべきだ、という当為性は、(一・) 二人称に向けられることによってはたらきかけの用法に移行する。当為性とはたらきかけとの違いは、はたらきかけには人称制限があること、テンス対立がないこと、である。はたらきかけ文の人称は意志の一人称、勧誘の一・二人称、命令の二人称で、三人称はあられない。また、はたらきかけ文にあらわれる動作や変化はつねに未来に起こることだが、過去テンスと対立するわけではないので、対立のなかの未来テンスではない。

なお、以下の訳では、焦点化助辞 tu に対応させるゾは表示しない。

上の例でみたように述語動詞の形は kami の位置によって変わる。述語動詞以外のところに kami があれば例(9)のように述語動詞はそのまま使用され、述語動詞に kami がつくと例(10)のように補助動詞との分析形になる。

ここで問題になるのは、はたらきかけ文のための語形の一つに勧誘形があつて、それを使用すればふつうに勧誘文ができるのに、なぜ、わざわざのべたて文の形のままで勧誘しようとするのか、ということだろう。結果として、そこには勧誘形による勧誘文にはない微妙なモーダルな違いがあらわれていた。それは聞き手に対する思いやりの気持の表現である。

この用法について話者の説明にあられるのは、「相手のことも考えて」や「相手を喜ばせようという気持ちで」といった表現である。この用法には、単に一方的にはたらきかけるのではない、聞き手の気持ちに配慮した、それに寄り添ったはたらきかけの態度、あるいは、なんらかの感情的な要素が、程度の差はあれ、あられやすい。

はたらきかけのおもなものは次のようなもので、基本的にはそれぞれ意味に対応した形式が使用される。

- ・意志形 numati (一人称) (私は) 飲もう。
- ・勧誘形 numa (numati) (一+二人称) (いっしょに) 飲もう。
- ・うながし num=tu mas (二人称・弱) 飲むといいよ。飲んだほうがいいよ。
- ・命令形 numi (二人称・強) 飲め。

このうち、意志形 numati の基本的な意味は意志だが、勧誘にも使用される。とくに、numati に同意を求める終助辞 i: がつくと勧誘(～しようね)を明示することになる。一方、勧誘形 numa が意志に使用されることはまれだろうか。うながしは、日本語にも大神島方言にも専用の語形(総合形、活用形)はなく、組み合わせ形式(～したらいい、～するといい、など)であらわされる。これらはいずれも単純な意志・勧誘・うながし・命令そのままである。

大神島方言ではこうした形態論的な語形・形式の違いによるはたらきかけムードの区別を、～kami=tu num/num=kami=tu s₁ 文によってもあらわしわけることができる。モーダルな意味の違いは場面によって、あるいは表情や口調などによってあらわしわけられる。

この形式があらわす意志・勧誘・うながし・命令には、なんらかのモーダルな要素が付加される。それは、聞き手への思いやりであったり、外的条件などによる当為性であったりする。聞き

手に直接はかかわらない話し手の意志の用法においてさえ、この形式を使用することで聞き手への思いやりがあらわされることがある。

(125) Nta=N=tu] numatisse:. どこで飲もうかな。

>uma=N=kami=tu] num.

- a) ここで飲もうよ。勧誘。あなたにはここで私といっしょに飲んでほしい。
- b) ここで飲むよ。意志。私はまさにここであなたといっしょに飲みたいから。

上の例は場面によって勧誘になったり意志になったりする例である。どちらにも相手を喜ばせようという気持ちがふくまれる。次の例はうながしと意志の例である。

(126) Nki=kami=tu] sɿ. (動詞の分析形)

- a) もう帰ったほうがいいよ。遅いからもう帰らなさいね。うながし
- b) 帰るよ。もう帰らなくちゃ。誘われたけど仕方なく断わる。意志

(127) niv=kami=tu] sɿ. (動詞の分析形)

- a) もう寝ようね。寝たほうがいいよ。うながし
- b) もう寝るよ。意志

6.1 勧誘 numa (numati) (一十二人称)

(128) ma:takina=kami=tu] num. いっしょに飲もう。=例(9)

ma:takina] numati. いっしょに飲もう。意志形による勧誘

uma=N] numa. ここで飲もう。勧誘形による勧誘

(129) ata=mai] ma:takina=kami=tu ikɿ. あしたもいっしょに行こうね。

ma:takina [ika. いっしょに行こう。勧誘形による勧誘

(130) ata: kitati] munu:=kami=tu fau. あしたは違うのを食べようね。(どう?と相手の気持ちを考えて言う。)

ata: kitati] munu: [fa:. あしたは違うのを食べよう。勧誘形による勧誘

(131) nau=ju=tu] aɿri:ɿ. [uma=N=kami=tu] numi:ɿ. なにを言ってるの、ここで飲んでいよう。

(もう帰ろうかな、に対して)

(132) kama=N=kami=tu] mi:ɿ. あそこで見よう。

(133) mi:]=kami=tu sɿ. 見よう。(動詞の分析形)

(134) fau=kami=tu] sɿ. 食べようよ。(遠慮しているような人に、少し強引に誘う。)(動詞の分析形)

6.2 うながし num=tu mas (二人称・弱)

(135) ma:takina=kami=tu] panasɿ. (あなたはあの人と) いっしょにおしゃべりしたほうがいいよ。

ma:takina] asp₁=tu mas. いっしょに遊んだほうがいいよ。

(136) ma:takina=kami=tu] asp₁. いっしょに遊ぶんだよ。(仲良くね。子どもへのうながし)

(137) unu] ₁wu:=pa: [ni:ta]=kami=tu jakS/jak₁. この魚は煮ないで焼いたほうがいいよ。

(138) sta=Nkai=kami=tu] usk₁. (上にのせないで) 下に置きなさい。(相手のことも考えて、そのほうがいいよ、という思いやりの気持ちがある。)

(139) ja:=Nki=kami=tu] nivvi:₁. 家に行って寝ていなさい。(疲れているんだからそのほうがいい。)

(140) Nki=kami=tu] s₁ [i:. もう帰ろうね。(帰ったほうがいいよ。酔っている人に。)(動詞の分析形)

6.3 命令 numi (二人称・強)

うながしと命令は連続していて、場面によって、また口調などによってあらかし分けられる。

(141) vva=mai=kami=tu] num. あなたも飲みなさい。(当然飲むべきだ。当為性に連続)

vva=mai] numi. おまえも飲め。(単純命令)

(142) Nmepi:ma:] mati=kami=tu u₁. もう少しは待ってろ。(どこにも行くな。)

jozi=kami] uma=N mati:ri. 4時までここで待っている。

6.4 意志 numati (一人称)

はたらきかけ性が一人称に向けられると意志の用法になる。日本語でも「飲もう」は二人称に向けられれば勧誘になり、一人称に向けられれば意志になる。num (飲む:終止, のべたて, 断定, 非過去) は基本的には一・二人称以外の意志性のないのべたて文に使用され、予定性の kumata との組み合わせで人称不問ののべたて文になる。

(143) ma:takina=kami=tu] fau. (私はみんなと) いっしょに食べよう。

uri:] fa:ti. これを食べよう。意志形による意志の文

karika=tu] fau. あいつが食べる。のべたて文

fau] kumata. 食べる(ことになっている)。予定性, 人称不問

(144) ma:takina=kami=tu] num. (私はみんなと) いっしょに飲もう。

(145) ara: niv=kami=tu s₁] Nme. 私は寝る, もう。(動詞の分析形)

(146) pi:maka:=ja uma=N=kami=tu] numi:₁ (<nimi u₁) . もう少しはここで飲んでいよう。

(147) uma=N=kami=tu] mati:₁. (私は) ここで待っていよう。(だからあなたは出かけていいよ。)

(148) mati=kami=tu] u₁. 待ってるよ。(私はどこにも行かないよ。だからあなたは出かけていいよ。)

◇付録1 近隣方言に関する辞典, 研究書等にみられる関連項目

本稿の内容に関連する部分のみを記載する。

●方言辞典等

『狩俣方言の世界』佐渡山正吉 (2014) 時空格 ガミ ウガンガミ大神まで, ピサラーミ平良まで

『宮古伊良部方言辞典』富浜定吉 (2013) 時空格・とりたて ガイ, 時空格 ターチ

『佐良浜方言語彙辞典』上地徳男 (2021) 時空格・とりたて ガミ, ターヒー

『たらまふつ辞典』下地賀代子・多良間村教育委員会 (2017) 時空格・とりたて ガミ

『みんなふつ語彙集』セリック・ケナン, 大浦辰夫 (2022) ガミ ①～まで②～は。対比を表わす。

●『南琉球宮古語伊良部島方言』下地理則 (2018) くろしお出版 (日本語訳のみに加工)

4. 3. 9. 限界格 =gami p.131

・「1年生から中学生まで gami ズラっとそろって勅語といった。

・いつまで gami も健康で, 長生きしないとね。

英語版ナシ・対比: (私は知らないが) 老人たち gami は知っているだろう。

10. 2. 7. 対比 =gami p.241

・「あんたも佐和田にいたの?」「(他の人は別として) 私 gami は長浜に来ていたの」

・「もう, 何を食べたか, そういうのも分かるわけないでしょう。お金がある豊かな者たち gami は, なんでも食べるだろうけど, 私たちは (生活が) つらかったから。」

・「蛇じゃなくて, 針 gami だよ。」

10. 2. 2. 排他 =tjaaki 「だけ」 p.238

「そいつをだけ tjaaki 叱ったんだよ。」

「そいつだけ tjaaki を叱ったんだよ。」

英語版:お前だけで行くな。

●池間島方言 (伊良波盛男氏への聞き取り調査から)

・空間 gami, ta:hi:

uma=gami ここまで

uma=ta:hi: ここまで

・時間 ta:hi: (時間の限界に gami は使用しないようだ。)

jusarabi=ta:hi: uma=N uri. 夕方までここにいる。

saNzi=ta:hi:=ja ku: jo:. 3時までには来いよ。

saNzi=ta:hi:=nna ku: jo:. 3時までには来いよ。 (saNzi=ta:hi:=nna < * saNzi=ta:hi:=N=ja)

saNzi=nna ku: jo:. 3時までには来いよ。 (saNzi=nna < * saNzi=N=ja)

・マデとりたて ta:hi: (gami は不可)

sara=ta:hi:=mai fai ssi=baka:i ja:sɣmunu atai. 皿までもたべているほどにひもじかった。

・その他の用法 (gami も ta:hi: も不可)

sqnaddi: hi: ui. 死にそうだ。死のうとしている。意志形+シテイル

kju:=ja h!itumi numadi. きょうはいっしょに飲もう。意志形

◇付録2 日本語のスルによるはたらきかけの用法

日本語動詞の終止のべたて断定非過去形（スル形）によるはたらきかけの例をあげておく。

・勧誘（終助辞ゾ・ヨ）

気にする必要ねえよ！ ほら、さっさと帰るぞ！ http://www.takuyo.co.jp/products/himehibi/himehibi_miniss1.html

サツキ「そろそろ帰るよメイ」 <https://bokete.jp/boke/88042311>

・うながし（いますぐでも未来でも。ノダ形+終助辞になりやすいか。）

友達にはやさしくするんだよ <https://note.com/hanex/n/n20fb7e1467c0>

「あのね、いい大人はそんなことはしないんだよ」と後ろの夫が言う。 https://twitter.com/tea_itsuko

これに懲りたら今度から真面目に授業を受けるんですよー <http://eternalking.blog.2nt.com/blog-entry-93.html>

今度から真面目に授業受けるんだぞ／うん！気をつけるよ <https://novel.prcm.jp/novel/N0yx6h9U3xsqAH0kOIg4/chapter/hy7qfzjBN5NlyxmETbr9>

・命令（いますぐ。終助辞ナシ）

ほら、さっさと食べる。片付かないでしょ <https://www.117.co.jp/sft/works/entry-43254.html>

さっさとやって、とつとと帰る！ <https://jp.mercari.com/shops/product/jhiXRvWJpUNmAYEjGdLM7W>

・意志

今度こそ絶対に勝つ <http://apg.blog3.fc2.com/blog-entry-676.html>

今日も1日仕事をがんばるぞ！ <https://gakumado.mynavi.jp/freshers/articles/46541>